

学級活動

適応と成長及び健康安全

指定校番号	28033	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立井口台小学校	校長	中島 孝子	生徒指導主事	松岡 亮平
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『豊かにかかわり合う学級活動のための土壌作りの充実』

取組のねらい『キーワード 豊かなかかわり』

本校の児童は、自分なりの考えを持っていたとしても、周りの目を気にするあまり、遠慮したり本音を隠したりする傾向が見られた。さらに、友だちが伝えようとするに関心を持たず、聞こうとしなかったり、相手を傷つけるような言葉を発したりする傾向も見られた。

そのため、児童に、自分の意見を素直に表現できる共感的な人間関係を育成するとともに、自分の意見を主張するだけでなく、相手を尊重しようとする態度を身につけさせ、何事にもやりがいや達成感を感じさせることができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード フリートーク』

全学級でフリートークを実施した。フリートークとは、話題に沿って、児童が自分の考えを述べ合う話し合い活動のことである。フリートークを通して、話す力、聴く力、話し合う力を育てることができると言われているが、本校では、いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進を図るためのライフスキル教育の一環として、友だちに共感したり、よさを感じたりするような仲間関係を育てていくことを一番のねらいとして行っている。基本的に、教員はフリートークに加わらず、児童たちだけで話し合う。

以下がフリートークの具体的な実施内容である。

- ① 1人の人〔リーダー〕が話題を出す。例えば、「好きな〇〇はなんですか?」「△△と□□どちらを選びますか?」「もし、〇〇だったら、どうしたいですか?」「どうしたら、〇〇できますか?」などの内容で行う。

「今日のテーマは『こたつとストーブのどちらがすきですか?』です。このテーマにしたのは、最近とても寒いので、みんながどっちを使ってあたたまっているかを聞いてみたいからです。わたしは、こたつの方が好きです。なぜかという、こたつに入るとぼかぼかしてあったかいからです。おたずねはありますか?」

- ② みんなで話題について自分の思ったことや考えたことを話し合う。

「私は、●●さんとちがって、ストーブが好きです。なぜかという、●●さんはあったまるまで、5分かかると言ったけど、うちの家のストーブはすぐあたたまるからストーブが好きです。」

- ③ 話し合いについてふりかえりをする。

「私（リーダー）が心に残ったのは、☆☆君の話です。理由は・・・だからです。みなさんはどうですか?」

「ぼくが心に残ったのは、★★さんの話です。理由は・・・だからです。」

- ④ 教員がフリートークについて感想を述べる。

取組の課題・創意工夫『キーワード 楽しむフリートークで仲間作り』

教員は、話す力、聴く力をつけようとしすぎないように、あくまでも、仲間関係を育てる視点に立ち、フリートークを児童たちが楽しめる形で続けていった。そのため、教師は「児童のありのままを聴く」「児童の話を楽しんで聴く」「児童の思いを想像しながら聴く」ことに徹した。また、聴き方の良い児童や伝わりやすい話し方をした児童を価値付けたりすることで、児童に相手意識や仲間意識を育み、話し合いやすい学級風土を作り上げられるよう工夫した。

取組の成果（効果）『キーワード フリートークに対する評価』

「フリートークで、進んで友達の話の聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。」という項目に対して、「よくできた」と答えた児童が、平成26年度…41%・平成27年度…44%・平成28年度…51%と徐々に増加している。普段の授業とは違い、和気あいあいとした雰囲気の中で進められるため、自分の意見や考えが述べやすいと感じている児童が存在しているように思われる。その一方で「あまりできなかった」もしくは「できなかった」と答えた児童は、平成26年度…20%・平成27年度…20%・平成28年度…19%と横ばい傾向にあり、積極的に参加できていないと実感している児童が存在しているという実態もある。意見を述べることだけが大切なのではなく、人の意見をしっかり聴くことで参加していることも大切なことであると教員が価値付けていくことで、フリートークを楽しむことができる児童を増やしていきたい。

また、教員対象に行ったアンケートの中には、「フリートークが日々の授業にも成果として表れており、意見を発表したり聴いたりする行動や姿勢に成果が出ている」と回答しているものもあった。

今後の展開『キーワード より効果的なフリートークの活用』

フリートークを本校で取り入れて3年目だが、話題が似たようなものになってしまうという課題がある。継続して行っていくことで以前の学級で取り上げた話題と重複しているという事態も頻繁に起こってきていることが、やや児童にとって意欲を損なわせているようにも感じられる。フリートーク以外にも豊かなかかわりを生み出す活動を取り入れてフリートークと併用して活用したり、同じ話題であってもメンバーが違うことで話し合いも違ってくることに目を向けさせたりする工夫が必要だと思われる。

他校へのアドバイス『キーワード 児童主体のフリートーク』

フリートークにおいて最も大切なことは、教員自身が話し合いを楽しんで聴くということであり、フリートークの最中には笑顔で素直な反応を心がけることである。つつい話す力・聴く力・話し合う力を『鍛える』形で指導してしまいがちであるが、この取組のねらいはあくまで豊かなかかわりを育むための土壌づくりである。教えるというスタンスではなく楽しむというスタンスだからこそ、「指導」ではなく、自由に話題について話し合いを楽しむ活動を行うことができる。人間関係作りの土壌ということもあるので、目に見える形ですぐに成果が表れることを期待せず、長期的な目で継続的に行うことが大切である。

また、教員が不必要に介入することは児童主体のフリートークの障害ともなってしまう。児童自身が主体となりフリートークそのものを完成させることで学級での仲間意識や学級内での自己存在感を育むことにもつながっていく。

指定校番号	28042	学級活動	○	児童会・生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	小西 啓二	生徒指導主事	村重 健一
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『小学生やりきり清掃体験』

取組のねらい『キーワード 小中連携』

- ・ 6年生児童が、大竹中学校の掃除の仕方（「やりきり清掃」…時間を守って集合・無言清掃・床を磨く・気づき掃除・きちんと片付け・がんばりを評価）を学び、それを下級生に教えることで小学校の掃除のレベルアップを図る。
- ・ 校内における掃除リーダーとなることで、6年生児童のリーダー性と自己有用感を高める。
- ・ 小中での掃除交流を通して、生徒・児童の親睦を深め、中1ギャップ解消の一助とする。

取組の具体的内容『キーワード 学んだことを伝える』

- ・ 4月に6年生児童全員に掃除時間のきまりや約束を再度確認して指導した後、ビデオで大竹中学校の掃除の様子を紹介する。（学級活動1時間）
- ・ 5月に6年生全員が中学校に行き、中学校の縦割り班に2～3名ずつ入って、中学生と一緒に15分間清掃をしながら、中学校の「やりきり清掃」を学ぶ。（学級活動1時間）



- ・ 5月末からは、6年生が小学校の各そうじ場所で「掃除リーダー」となり、中学校で学んだことをもとに、下級生に掃除のやり方を教えたり、反省会で下級生をほめたり、アドバイスをしたりする。6年生は学期ごとに担当の場所を変えて、「掃除リーダー」を経験する。（日々の掃除時間）

取組の課題・創意工夫 『キーワード 6年生のやる気アップ』

【課題】

- ・ 6年生が中学校の掃除を体験するのが1回だけなので、小学校での「掃除リーダー」の活動で少し中だるみを感じてしまう時期がある。中学校の体験入学や入学説明会などの際にも中学生の掃除の様子を見学したり、中学生と一緒に掃除をしたりする機会がもてるとよい。
- ・ 普段の掃除時間において、無言清掃の徹底というところには至っていない。

【創意工夫】

- ・ 小学生が掃除体験の感想を書いて中学生に渡し、中学校の全校朝会で紹介してもらう。
- ・ 各そうじ場所のふりかえりカードを用意し、毎日の掃除時間終了後に担当教諭からサインとコメントをもらう。
- ・ 毎月末、担当教諭が掃除リーダーに対する評価をして、担任に伝える。
- ・ 年度末に、下級生が6年生の掃除リーダーに感謝の手紙を書いて渡す。

取組の成果（効果）『キーワード 掃除に対する意欲の向上』

- ・中学校の掃除に学び、「掃除リーダー」になることで、6年生児童の掃除に対する意欲や態度が前向きになっている。また、掃除場所に6年生がいることで、下級生の中でも掃除をがんばってやろうとしている児童が増えており、気づき掃除をしようとする児童が増えるなど、掃除を頑張るという雰囲気ができつつある。
- ・学校評価アンケートの児童アンケートによると、「掃除をだまって時間いっぱい一生懸命しているか」という項目に対して、肯定的に答えている児童が95%を越えている。



今後の展開『キーワード 継続と浸透』

- ・今後も引き続き、小中連携の一環としてこの取組を継続していく。
- ・中学生に小学生の掃除の様子を見て評価してもらったり、中学生の掃除の様子をビデオで撮影したものを6年生以外の児童にも見せる機会を設定したりするなどして、小学生の意識の向上と掃除のレベルアップを図る。

他校へのアドバイス『キーワード 中学生に学ぶ』

- ・大竹中学校では縦割り班による「やりきり清掃」の徹底が数年にわたって継続されている。中学生に小学生が学び、小学校と中学校とで掃除のやり方や約束を揃えていくことで、小学生の掃除のレベルアップが期待でき、中学校への移行もスムーズになる。

指定校番号	28060	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	小田原 まゆみ	生徒指導主事	山藤 弘基
-----	-----------	----	---------	--------	-------

取組事例名 『構成的グループエンカウンター』

取組のねらい『キーワード だれでもできる人間関係づくり』

構成的グループエンカウンターは、ねらいをよく理解すれば、初心者の先生でもどの先生でも十分行うことができます。学級での人間関係が、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験と高まっていくように用意されており、クラスの実態に合わせて選んだり、作りかえたりすることができます。そして、人間関係づくりに有効な活動です。

本校の実態として、経験が浅い教諭が増えてきており、学級内でのトラブルが増加傾向にあるという課題があります。そこで、どの学級においても円滑な人間関係づくりができるようにし、学級間格差をすくなくしていくことをねらいとしてこの構成的グループエンカウンターに取り組んでいきました。

取組の具体的内容『キーワード 月に1回以上の構成的グループエンカウンター』

2学期の構成的グループエンカウンター計画

	1 年	2 年	3 年
9月	〇〇とじゃんけん	じゃんけんインタビュー	この指とまれ
10月	どきどきをかじよう	この指とまれ	この指とまれ
11月	いまだどっちむいてるの？	何をえらびますか	じゃんけんインタビュー
12月	テレパシーをキャッチ	何をえらびますか	ホメホメクラブ

	4 年	5 年	6 年
9月	じゃんけんインタビュー	じゃんけんインタビュー	連想ゲーム
10月	なんでもバスケット	じゃんけんインタビュー	聴く聴かない
11月	きみはどっち	ブラインド・デート	何をえらびますか
12月	いいとこさがし	何をえらびますか	みんなでリフレーミング



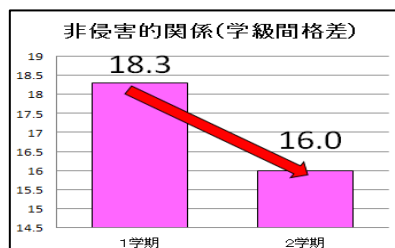
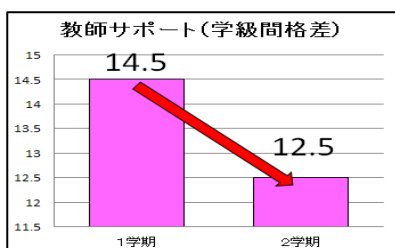
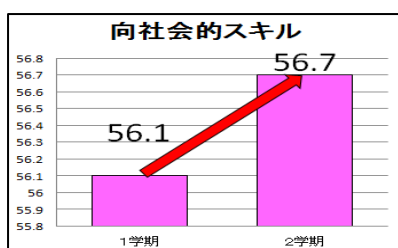
夏休みに、学年・学級の実態に応じて計画を立て、月初めの学級活動の授業の半分を使って実施しました。内容については、児童の変容や実態に応じて計画をしましたが、まずは、どの学級も児童の自己理解・他者理解・自己受容を目的に計画しました。また、回数についても月に1回は行うこととしましたが、多くの学年で1回以上行いました。児童からの要望も多々ありました。

取組の課題・創意工夫『キーワード 組織的に定期的に』

月に1回、確実に構成的グループエンカウンターを実施できるように、実施前に学年主任が学年全体に声をかけ、実施後には、学年会で実施報告を行いました。さらに、学年会でまとめた報告を学校経営会議で情報交流し、組織的で定期的な取組にしました。

取組の成果（効果）『キーワード 学級間格差の減少』

アセス（学校環境適応感の測定）と1学期の結果と2学期の結果を比較してみると、向社会的スキル（友達の援助や友達との関係をつくるスキルをもっていると感じている程度）の数値は、56.1ポイントから56.7ポイントに上昇しました。また、教師サポート（担任との関係が良好だと感じている程度）の学級間格差は14.5ポイントから12.5ポイントへ、非侵害的關係（拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度）の学級間格差は18.3ポイントから16.0ポイントへ減少しました。数値的にも、学級間の格差が少なくなっていることが分かります。



各学年からの実施報告

- 〈1年〉自分との違いや共通点を見つけている。友達が優しくしてくれたのでうれしかった。友達の温かさを感じた。楽しんでいる。
- 〈2年〉あまり話したことがない友達と話すことができた。とても喜んで楽しんで行っている。次回は、今までとちがうエンカウンターをしたい。
- 〈3年〉意外な事実が分かって、また、したいという意見が出た。3年生全体でもしてほしいという希望がある。
- 〈4年〉ルールを守って楽しんで行った。行ったことを生活に生かしていきたい。
- 〈5年〉人間関係づくりができた。友達のことを深く知り、友達との共通点を知ることができた。
- 〈6年〉話していても、認めもらえる安心感があるので、楽しんで行っている。たくさんの人とかかわれて楽しかったようだ。同じものを選んでも理由がちがうことに気付いていた。常に笑顔で行っていた。

今後の展開『キーワード 研修』

さらなる学級間の格差を減少させるために、グループエンカウンターの実践交流を行います。さらに、アセスの結果が1学期よりさらに上昇したクラスや児童の反応や保護者の反応がとても良かったクラスについて実践事例を具体的に紹介するなど、より実践的な研修を行います。

他校へのアドバイス『キーワード 涵養』

即効性のあるものではないですが、水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと繰り返し行うことで効果が表れてくると考えています。ねらいをよく理解して粘り強く楽しんで行うことをおすすめします。

指定校番号	28087	学級活動	○	児童会・生徒会活動		学校行事		別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	--	------	--	------

平成 28 年度 生徒指導 集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	五日市中学校	校長	岩井 正徳	生徒指導主事	角舎 宏治
-----	--------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『百人一首大会への取り組み』

取組のねらい『キーワード 係わり合い』

「百人一首」を通じて、日本の伝統文化に親しむとともに、学年・学級という集団でのマナーや関わり方、リーダー性を育む。障害のある生徒に対する合理的配慮の存在に気付かせる。「共感的な人間関係」「自己存在感」「自己決定」を意識した取組になるよう気をつける。

取組の具体的内容『キーワード 集団作り』

冬休みの宿題として、「百人一首を覚えること」を伝えておく。休み明けに学級では班で練習を始め、ルールとマナーの確認も行う。配慮の必要な生徒に対してどう関わるかを班や学級で必要に応じて考える。他クラスと交流練習を行うこともある。大会は、1月末に学級対抗（班対抗）のクラスマッチ形式で行い、対戦相手を入れ替えながら競技する。教諭が上の句を読み、一斉に下の句の札を取り合う。取組を通して学んだこと、感じたこと、考えたことなど振り返りシートに記入させ、学級で気持ちを共有する。学級の課題に対してもこの時期に考え、今後につなげて行く事もできる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 楽しみながらみんなが参加する』

事前に国語科、学級活動の取組を通して、百人一首を覚え、模擬的な大会を各学級で行う。その中で、競技のルールを理解させる。特に、静かにするときとそうではないときのメリハリを大切にしておくことを理解させる。また、障害のある生徒に対する合理的配慮について理解を深めさせる。合理的配慮の例としては、難聴学級の生徒のために、手話（指文字）を覚えたり、要約筆記をしたり、スクリーンで上の句を投影したりし、足に障害のある生徒に対しては、椅子とテーブルを用意したり、移動の際に補助を行ったりするなど考えられる。こだわりの強い生徒に対しては、学級や班での話し合いなどの場面で、しっかり意思を伝えあうための時間を多めに確保したりすることもある。

取組の成果（効果）『キーワード 気づき考え』

学級や班で作戦を考え、取り組む中で、集団作りが進んでいく。また、覚える事が得意、苦手に関係なく、競技を行い、振り返りを行い、再度作戦を考える中で、楽しく協力して取り組む力、望ましい集団として成長している。その中で、ルールやマナーの大切さや、障害のある生徒に対する合理的配慮についても生徒の学び・経験が生まれる。

今後の展開『キーワード 2年生に向けて』

学年全体には講評をする中で、もうすぐ後輩ができ、部活動や生徒会活動などでは中心になっていくことを意識させる。学級活動では、振り返りを行う中で、集団作りに必要なことがたくさんあることに気づかせ、再確認を行う。伝統文化も紹介することで、修学旅行につなげていくこともできる。

他校へのアドバイス『キーワード 年間を通じて継続した取組』

本行事は、1年生の最後に学級のまとまりを感じさせ、よりよい人間関係を育むための取組として位置づけ、毎年1月に実施している。

生徒は本行事までの人間関係を基に、お互いをより深く理解していく行事となっているため、次年度、新たな人間関係を築くために有効な取組であると考えている。

指定校番号	28106	学級活動	○	児童会・生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-----------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	友繁 孝実	生徒指導主事	三宅 伸之
-----	-------------	----	-------	--------	-------

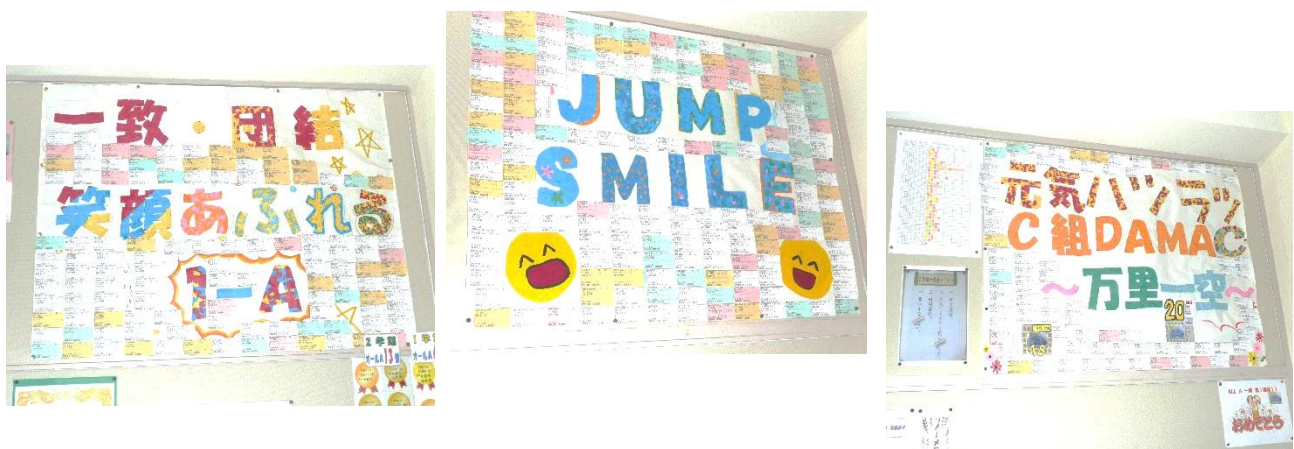
取組事例名 『仲間のおいところをみつけてプラス(+)行動を増やす!』

取組のねらい 『自己肯定感や自己存在感の向上』

生徒が、仲間同士で互いのよいところを見つけ合い、学校生活のプラス行動を増やすことで、自己肯定感や自己存在感を高め合う。

取組の具体的内容 『ほめほめカードで仲間のよさを視覚化』

- ① 教室に4種類のカード(ほめほめカード)を置く。
- ② 生徒は仲間のおいところやほめたいところを見つけたら、カードに書いて担任に提出する。
- ③ 担任はカードを見て、教室内のほめほめ達成シートにカード一枚につき一枚のシールを貼る。



取組の課題・創意工夫 『すべての生徒が評価される取組』『吉中三訓とのリンク』

取組の課題

担任は、意図的にペアをつくり、1週間でパートナーについて最低1枚はカードが書けるように指導する。ほめほめカードが貼れない生徒をつくらないことを基本とする。または、状況によっては担任や教科担任がほめほめカードを書いていく。



創意工夫 教室内に4色のほめほめカード入れを設置する

ほめほめカード	月	日	① 記入日	挨拶励行関係の内容 (黄色) 時間厳守関係の内容 (赤色) 傾聴姿勢関係の内容 (青色) 吉中三訓以外の内容 (白色)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">吉中三訓</div>
To ()	② ほめる仲間の名前		
内容()	③ ほめる内容 (簡潔に)		
From()	④ カードの記入者		
挨拶励行関係項目					

取組の成果（効果）『生徒と生徒の繋がりづくり』

ほめほめカードを増やす取組で生徒と生徒をつなぐことができた。また、仲間のために働くことができる生徒が多くカードをもらって評価され、その学級の支持を受けて生徒会役員選挙に立候補するまでになった。結果として、生徒が仲間同士でお互いのよいところを見つけ合い、学校生活のプラス行動を増やし、自己肯定感や自己存在感を確実に持つことができる生徒を増やすことができた。

今後の展開『「安心の雰囲気」をつくる活動（アクティビティ）』

今回の取組から生徒同士のつながりづくりのきっかけができたので、学級内の人間関係を今よりさらに良好な関係（＝信頼関係）にできるように、学級の雰囲気づくりに取り組んでいくことにした。

朝会、または暮会の時間の5分程度内を使い、エンカウンターを要素を取り入れた活動（アクティビティ）を1週間に2、3回程度行う。事後アンケートで目標とする望ましい雰囲気づくりができているとした生徒があらかじめ設定した数値目標を超えたら、次のSTEPの活動へステップ・アップしていく。

他校へのアドバイス『心の居場所づくり』

ほめほめカードのづくりや「安心の雰囲気」をつくる活動は、すべて人間関係づくりの取組である。この取組を指導する職員の姿勢によって、成果に大きく差が生じることを忘れてはならない。それゆえに、指導者は笑顔で生徒の前に立ち、生徒の心の居場所づくりを日々工夫していく必要がある。